

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

| |
|--|
| 研究課題名 上部尿路結石症に対する経尿道的尿路結石碎石術における周術期合併症と術後尿管狭窄症に関する全国調査 |
| 2 研究計画 (1)背景・意義・目的 上部尿路結石症疾患は、本邦において男性7人に一人、女性15人に1人が罹患する比較的頻度が高い疾患であるとともに、5年で45%が再発するという特徴をもつため、一度罹患した患者は生涯に渡って複数回の治療を受ける可能性があります。一方でその治療には自然排石、薬剤促進療法、体外衝撃波(Extracorporeal Shock Wave Lithotomy; ESWL)、経尿道的尿路結石碎石術(Transurethral Ureteral Lithotomy: TUL)、経皮的腎碎石術(Percutaneous nephrolithotomy: PNL)、開腹・腹腔鏡下尿管腎切石術と多くの治療選択肢があります。本邦においては近年の医療機器と技術の進歩に伴い尿管鏡(内視鏡)を用いたTULが増加しています。TULは各施設において比較的導入し易く、良い手術術式であるが、各施設独自のやり方で手術を行っているのが現状であり、標準術式として確立していないだけでなく、手術合併症の種類、頻度も変化してきていると考えられます。本研究では、この上部尿路結石症疾患に対する経尿道的尿路結石碎石術の日本の現状を明らかにするため、過去の症例のデータを集積したいと思います。 (2)方法 診療録から以下のデータを収集します。収集したデータは、神戸大学病院の研究事務局作成の調査票(WORDファイルとEXCELファイル)へデータを入力します。データの受け渡しは、ファイルへパスワードを設定した上で研究事務局へEmailにて送付します。 この研究は倫理委員会承認日から2021年3月31日まで実施いたします。その対象患者さんは2017年4月1日から2020年3月31日までの3年間に当院泌尿器科において上部尿路結石症に対して経尿道的尿路結石碎石術を施行し周術期合併症を発症した方々です。 <ul style="list-style-type: none">・性別、年齢、身長、体重・画像検査の結果:手術前水腎症の有無、手術前尿管ステント留置の有無、尿路結石部位、結石サイズ(最大長径)、結石の硬さ(CT値:HU)、尿管狭窄症に対する治療方法・入院期間日数・尿管ステント抜去時期・術後経過観察時期 |
| 個人情報の取り扱い 本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。 |
| 連絡先 東京警察病院 泌尿器科 増田 朋子 電話:03-5343-5611(代表) |